

授業科目

公衆栄養学Ⅱ

【担当教員名】 村山伸子	対象学年	3	対象学科	健康
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：G I O>】
公衆栄養学Ⅰ、Ⅱを通じて、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報および住民ニーズを収集分析し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。公衆栄養学Ⅱでは、公衆栄養マネジメントの基本的な理論と手法について学ぶ。特に、地域マネジメントの理論、地域アセスメント、評価の手法について、実際の地域でのシミュレーションを行いながら、参加型で学ぶ。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】

1. 公衆栄養マネジメントの概念と枠組みについて、イメージし、記述できる。
2. 地域栄養アセスメントにおいて住民参加型でニーズを把握する手法について体験する。
3. 地域栄養アセスメントにおいて、量的調査方法を理解し、使うことができる。
4. 栄養疫学を用いた、因果関係の把握ができる。
5. 公衆栄養全体計画に基づいた、事業計画が立案できる。
6. 公衆栄養全体計画の評価と、事業の評価をデザインできる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	公衆栄養マネジメントの概念、プロセス	1	講義
2	公衆栄養の枠組みモデルと住民参加型の活動展開手法（地域づくり型、PPM、PCMなど）	2	講義
3	地域栄養アセスメントの手法①（住民ニーズ、QOLの把握：質的方法）	2	講義＋ワークショップ
4	地域栄養アセスメントの手法②（地域の健康・栄養状態、食事、食知識、食態度、食行動、食スキル、食環境、生活習慣、社会経済文化的環境、自然環境の把握：量的方法）	3	講義＋ワークショップ
5	栄養疫学① 栄養疫学の概要、暴露情報としての食事摂取（因果関係の考え方）	3,4	講義＋ワークショップ
6	栄養疫学② 食事摂取量の測定方法（秤量法、24時間食物記録法、食物摂取頻度法など、妥当性と信頼性）	3,4	講義＋ワークショップ
7	栄養疫学③ 総エネルギー摂取量の栄養素摂取量に及ぼす影響	3,4	講義＋ワークショップ
8	栄養疫学④ 疫学の方法を用いた集団の栄養状態のアセスメントと評価（研究デザインと根拠のレベル） 記述疫学、生態学的研究、横断的研究、コホート研究、症例対照研究、介入研究、無作為比較対照試験	3,4	講義＋ワークショップ
9	栄養疫学⑤ 疫学の方法を用いた集団の栄養状態のアセスメントと評価（研究デザインと根拠のレベル データ解析の手法）	3,4	講義＋ワークショップ
10	公衆栄養全体計画と事業計画への展開（課題、目標の優先順位の設定）	5	講義＋ワークショップ
11	公衆栄養プログラム（事業）の実施過程のマネジメント（地域資源のマネジメント、コミュニケーションの管理、行動科学理論の応用）	5	講義＋ワークショップ
12	評価とモニタリング手法（プロセス評価）	6	講義＋ワークショップ
13	評価とモニタリング手法（影響、結果評価、行政評価、経済評価）	6	講義＋ワークショップ
14	まとめ	1-6	ディスカッション

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	栄養疫学	坪野吉孝、久道茂	南江堂	2001年
参考書	食事調査のすべて－栄養疫学－	Willett W.	第一出版	
	食事評価法マニュアル	Thompson FE, Byers T.	医歯薬出版	
その他の資料	Evidence-based Nutrition EBN栄養調査・栄養指導の実際	佐々木 敏	医歯薬出版	

【評価方法】	【履修上の留意点】
出席20% 積極的参加20% 期末試験60%	参加型の講義形式であるので、積極的に参加すること。論理的に考えることに慣れること。